

ほけんだより 4月

千鳥小
保健室
R6.4.8



～おうちの方へ～

いつも学校保健にご協力いただき、ありがとうございます。保健室から子どもたちの心と体の健康を見守っていきたいと思います。どうぞよろしくお祈りします。

【保健室について】

学校での手当ては、医療機関に行くまで、または保護者の皆様にお子様を引き渡すまでの一時的なものです。保健室は診断や継続的な治療をする場ではなく、一時的な応急処置であることをご承知ください。

前日のけがや学校以外でのけがについてはご家庭で手当てをし、学校生活が送れるようにしてください。絆創膏の貼り換えや湿布の貼り換えを必要な場合はお子様に持たせてください。

- けがの手当て・・・主に、消毒や絆創膏での保護、冷却です。
- 体調不良時・・・保健室にて休養させます。薬を与えることはできません。

早退の目安

- ・ 37.5℃以上の発熱 ・ 嘔吐、下痢
- ・ 午後の授業があるのに給食を食べることができない場合
- ・ 保健室で1時間程休養しても回復の見込みがない場合 等

保健室で休養しても回復しない場合、保護者の方に連絡をします。迎えに来てください。児童一人で下校させることはできません。

※ 医療機関を受診した方が良いと学校が判断した場合や早退する場合は、保護者の方に連絡をします。緊急連絡先は必ず連絡がつくようにしてください。病院を受診することになった場合、保護者の方は可能であれば保険証を持って医療機関にお越しください。

※ 使用できない薬品（湿布や消毒液など）がある場合は、あらかじめお申し出ください。

【健康診断について】

学校で行う健康診断は、病気の診断をするものではなく、あくまでもスクリーニング(疑いのある徴候を見つけ出すこと)です。

健康診断の結果、疑いがあった場合は「治療のすすめ」等で連絡いたしますので、早めに医療機関を受診してください。受診後、治療報告書を学校へ提出してください。すでに受診されている場合はその有無を記入いただき、学校へ提出してください。



【嘔吐・下痢の対応について】

嘔吐や下痢で汚れた衣類は感染防止のため学校で洗うことができません。汚れたままビニル袋に入れて返却します。あらかじめご了承ください。

【色覚特性について】

色の見え方には個人差があります。日常生活を送ったり、進路選択等をしたりする上で、自分自身の色の見え方を知っておくことは大切です。お子様の色の見え方が気になる場合は、4月30日（火）までに学校にご相談ください。学校眼科医につないで検査を実施いたします。

【耳鼻咽喉科検診について】

小学校における耳鼻咽喉科検診は、令和5年度までは2年生に実施していました。令和5年度は、小学校2・4年生の全員と6年生の抽出児童に実施しました。今年度以降は、小学校2・4年生の全員と1・3・5・6年生の抽出児童が対象となります。

【出席停止の感染症について】

医師から、下の感染症と診断された場合は、出席停止となります。その際は、速やかに学校へご連絡ください。疑いがあるときも出席停止となります。医師の診断書は必要ありませんが、医師の指示に従って感染のおそれがなくなるまでご家庭でゆっくり休ませてください。

	学校感染症の種類
第1種	エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 痘そう 南米出血熱 ペスト マールブルグ病 ラッサ熱 急性灰白髄炎(ポリオ) シフテリア 重症急性呼吸器症候群(SARS) 中東呼吸器症候群(MERS) 特定鳥インフルエンザ(H5N1 または H7N9)
第2種	インフルエンザ 百日咳 麻疹(はしか) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) 結核 風疹(三日はしか) 水痘(みずぼうそう) 咽頭結膜熱(プール熱) 髄膜炎菌性髄膜炎 新型コロナウイルス感染症
第3種	コレラ 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス パラチフス 流行性角結膜炎 急性出血性結膜炎 その他の感染症 【手足口病、伝染性紅斑、溶連菌感染症、ウイルス性肝炎、流行性嘔吐下痢症(感染性胃腸炎)、マイコプラズマ感染症、ヘルパンギーナ等】

【学校医の先生方を紹介します】

内科・・・笠井 啓子先生 (K こどもクリニック)
歯科・・・加藤 篤史先生 (加藤歯科)
眼科・・・戸塚 伸吉先生 (とつか眼科)
耳鼻科・・・服部 康介先生 (服部耳鼻咽喉科医院)
学校薬剤師・・・後藤 優子先生 (鳴浜薬局)

